

# 日本蘭亭会だより

## 蘭亭会の旅（寒山寺や江蘇省の名勝・碑林・博物館を巡る7日間）



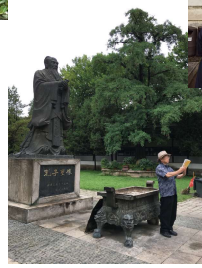
寒山寺



焦山での碑林めぐり



滄浪亭など  
蘇州の碑林を  
めぐる



南京博物院にて

鎮江・金山寺と景勝



夕暮から夜へと姿を変える朱家角



「蘭亭会の旅」は二六名の参加者で、六月二九日から七月五日の日程で実施されました。観光のスタート地点は蘇州。「楓橋夜泊」で有名な姑蘇城外の「寒山寺」では、張継や唐寅らの碑刻を鑑賞、「蘇州碑刻博物館」では文徵明らの碑刻に出会うなど、まさに碑林を巡る旅が幕を開けました。蘇州の代表的な世界遺産「留園」や「滄浪亭」の名園も訪れ、今なお残る古都の風情に浸りました。

蘇州を後にした一行は、一路鎮江へ向かいました。雪舟も訪れた景勝地「金山寺」では、長い石階段に苦戦しながらも、頂上から雄大な長江を望むと、水運交通の要として栄えた当地の歴史を実感しました。その後、数と質で江南随一と言われる「焦山・定慧寺」の碑林を歩き、三国志の舞台「北固山」の要塞に登りました。揚州で立ち寄った仏教寺院「大明寺」は、鑑真が住職を務めたことで名高く、皆でその功績に想いを馳せました。

旅行後半には、江蘇省の省都・南京まで足を延ばしました。充実した書画のコレクションを誇る「南京博物院」では、呉昌碩など中国を代表する作家の芸術に触れ、太祖洪武帝が眠る世界遺産「明孝陵」も訪問しました。江南地方の山水の美麗を象徴する景観の一つ、無錫の「鼋頭渚公園」では、太湖の広大さに圧倒されました。帰国前夜、散策に訪れた上海郊外の水郷古鎮「朱家角」では、あいにくの雨模様でしたが、歴史感じる街並みと川沿いに揺れる灯りを眺めつつ、充実した旅行の最終日を全員で満喫しました。